

今年3月、日本で初めてサクラダンゴウオの繁殖に成功しました。この魚は平成29年に発表された新種で、前例がない中、ゼロからのスタートだったので、苦労した分、成功して



魚類担当 柴田 風沙さん

ても感慨深いです。新しい仲間がどんどん増えているうみがたりの成長を、市民の皆さんには一番近くで見たいです。

### 日本で初めてサクラダンゴウオの繁殖に成功しました。

スポットでサクラダンゴウオの幼魚を移動する柴田さん。



▶ サクラダンゴウオは成魚でも3センチメートルほどの大きさ。



◀ サクラダンゴウオの卵。



水処理・設備担当 大淵 祐介さん

館内に70基以上あるポンプを点検・清掃し、きれいな水質と生きものごとに最適な水温を保つよう心がけています。皆さんから最高の状態で生きものたちを見てもらうために、透明度には特にこだわっています。裏方の仕事なので普段はお会いできませんが、バックヤードツアーで皆さんにお会いするのが楽しみにしています！

クリアな水で泳ぐ魚たちを見てもらいたい。



メーターを確認しながらポンプのバルブを回す大淵さん。

毎日開催

### うみがたりバックヤードツアー

- ▶ とき…①午前11時15分～②午後2時15分～(各回30分程度)
- ▶ 定員…10人/回(当日先着順)
- ▶ 対象…小学1年生以上
- ▶ 費用…500円(入館料別途)



イルカとコミュニケーションを図る藤本さん。

イルカを担当しています。好評いただいているパフォーマンスでは、新しい演目に向けて、手作りのおもちゃを使ったトレーニングにもチャレンジしています。毎日手作業で行うプール掃除も大事な仕事です。夏場は床や壁に生える苔の成長が速く大変ですが、きれいな水槽を見ていただけるよう努力しています。会話ができるわけではないので、イルカたちとどうコミュニケーションをとるか試行錯誤の毎日ですが、私もイルカたちと一緒に成長していきたいです。

イルカの気持ちに寄り添いながら、一緒に成長したい。



海獣担当 藤本 帆乃花さん



▲ 掃除中はイルカが「遊んで〜」と寄って来ることも。

いま、伝えたい。うみがたりスタッフの想い。

# スタッフがたり

約70人ものスタッフで運営しているうみがたり。皆さんとは実際にお会いする機会が少ないスタッフもいますが、どの人にも熱い想いが。今回はその中でも6人のスタッフに、日々の業務やうみがたりへの想いをお聞きしました。

プタイウラまで、語ります！



目の前の日本海には、太平洋とは異なるたくさんの個性的な生きものが暮らしています。当館で展示している生きものたちは、太平洋側から来た私にはどれも珍しく、例えば、名立の漁師さんの協力を得て展示しているヒゲナガヤギウオは、日本海側の水族館でもうみがたりでしか見られないんですよ。豊かな日本海の生きものたちに会いに、何度も足を運んでいただきたいです！

ここでしか見られない魚も。日本海って素晴らしいです。



魚類リーダー 鈴木 涼太さん

鈴木さんお気に入りのヒゲナガヤギウオ。



もうすぐ産めるかな？

◀ 産まれたばかりの頃のアザラシ。毛がふっさふさ。

治療が必要な生きものには、普段と違う餌を与えたり飼育環境を変えたりと、普段と違う生活を求めることとなります。そうなる前に異変に気づき対処してあげられるよう、日頃から注意深く観察しています。アザラシの出産は、私にとって初めての哺乳類の繁殖でした。ちゃんと生まれてきてくれるか、育ててくれるかとても心配でしたが、最近ようやく喜びを実感できています。

動物たちの生活が変わらないようにケアを。



獣医師 横澤 彰平さん

ペンギンやアザラシの飼育を担当しています。うみがたりのマゼランペンギンの飼育数は約130羽と日本一！全国の水族館には当館出身のマゼランペンギンがたくさんいるんですよ。数が多い分、一羽一羽の体調の変化を見逃さないよう、気を付けています。アザラシの出産は、3週間前から飼育チーム総出で24時間体制で見守っていました。生まれたのは私がお休みの日でしたが、連絡をもらって駆け付けました。皆さんも、かわいがってくださいね！

ペンギンって表情も変わるんですよ。



海獣担当 柴田 紗良さん